

読書

県図書館に行こう

こんな情報^①が待っている

東京帝大にサクラ博士と呼ばれた植物学者がいた。具出身の三好学である。代表的著作の一つが『桜花図譜』である。彼は桜だけではなく菫蒲(しょうぶ)の研究でも世界の第一人者といわれ、わが国の「史蹟名勝

三好は著書『桜』の中で、岩村城のふもとで山桜の開花時に遊んだ往時を「桜に就(つい)ての最初の印象を得たのは此頃(このころ)であつたと思ふ」と述懐している。石川県第三師範学校を卒業、二年余り土岐学校

天然記念物保存法」制定の立役者ともなった。一八六一(文久元)年十二月、岩村藩士三好友衛の二男として江戸藩邸で生まれた。六八(明治元)年、父母とともに美濃岩村(現恵那市)へ移り少年時代を過ごした。

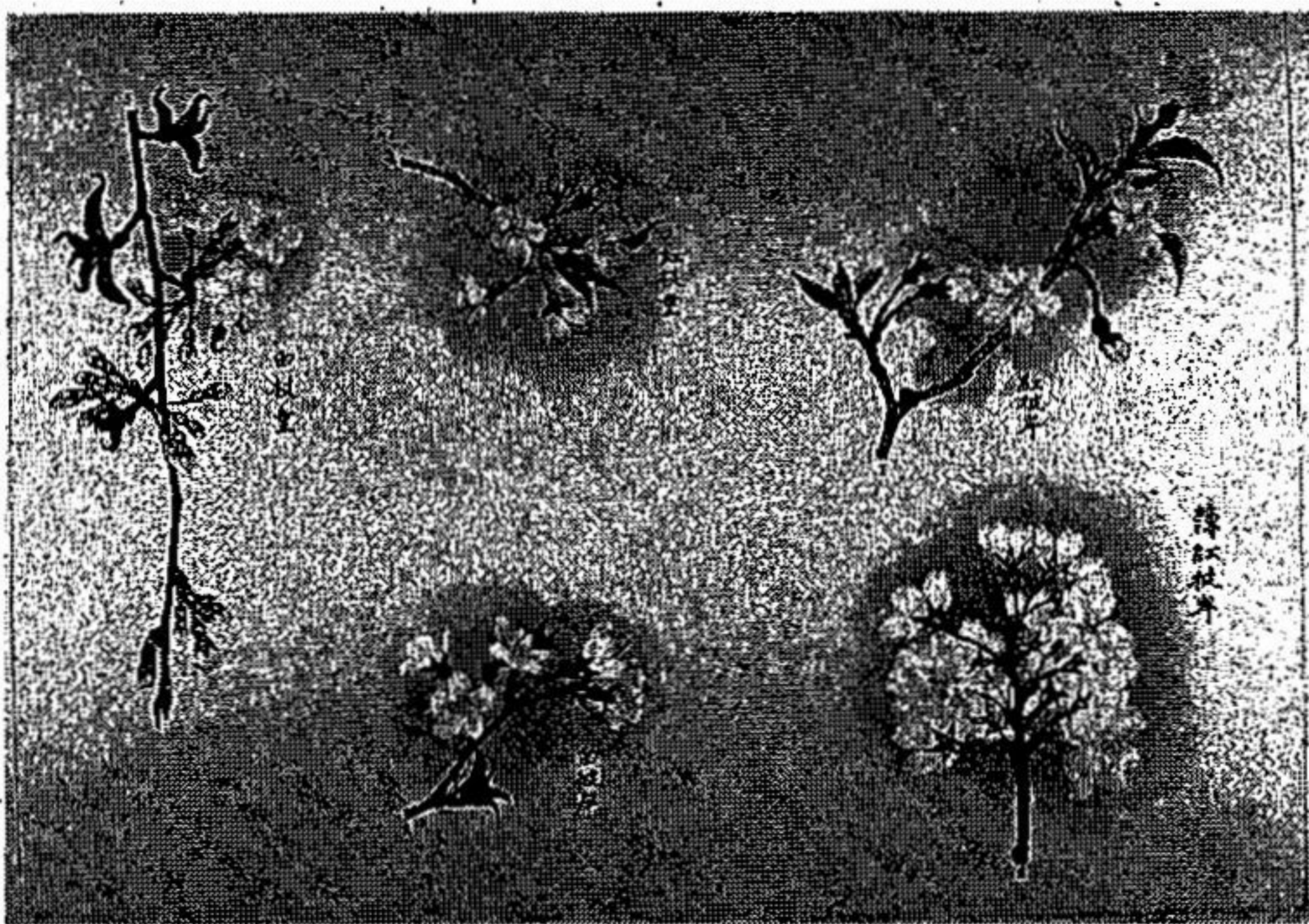
(現瑞浪市土岐小)校長を務めた後、東京大理学部に進学、以後植物学者として活躍、日本の植物学研究の基礎を築いた。三好は桜を植物分類学的に研究するとともに、桜に関する古文獻、写生図譜の調査も行った。し

サクラ博士の業績伝える

桜花図譜

かしこれらの図譜の多くは秘蔵され、人々が容易に見られるものではなかった。そこで桜の品種を知るための便覧として著したものが本書である。

一九二一(大正十)年に発行された本書は上下二巻で、百十二種の桜が紹介されている。原寸大で描かれた図版は、着色木版刷で花卉の微妙な色合いや細かな繊毛まで表現され、さながら美術画集とも言うべき美しさである。また、英文目次に並ぶ桜の学名のほとんどに博士の名「MIYOS」が付く様は壮観。



まるで美術画集のような「桜花図譜」の二ページ

三好は講演等で桜の知識普及に努め、桜の名所や名木の保護・保存にも尽力した。三好の研究により名勝・天然記念物に指定された桜は根尾谷の淡墨桜をはじめ四十一件に上る。今なお残るそれらの桜とともに、本書はサクラ博士の業績とその思いを今に伝えている。